



## パー子さん・ルーンさん夫妻

パー子さん

出身：南部町

職業：製造業勤務

ルーンさん

出身：マレーシア・パハン (Pahang)

職業：野の花料理長 (JOCA)

住所：南部町八金

## 里山で生きるマレーシア人と日本人夫婦

今回は南部町にある金華山の麓、八金在住のパー子さん・ルーンさんご夫妻を訪ねた。

二人とも日中は仕事をしているため、家で一緒に過ごせるのは夜の時間。その日は幸い晴れていたということもあり、八金の空には満天の星空が見えた。誇張抜きで、南部町で見た数々の美しい星空の中でダントツに綺麗だった。星空の美しさに感動しながらしばらく車を走らせていると、パー子さんとルーンさんの家の前に着いた。インターフォンを鳴らすと、いつも元気なパー子さんが笑顔で出迎えてくれた。リビングに案内されると、ルーンさんも来てくれた。二人とは、何度か一緒に食事をしたりイベントで話したりしていたので出会いのきっかけは詳しく聞いたことがなかった。

### “出会いのきっかけ”

パー子さんはマレーシアに住んでいたことがあると以前伺っていたので、二人の出会いの場所はマレーシアなのかと思いきや、実はアイルランドで出会ったそう。興味深すぎて頭の中はもうクエスチョンマークでいっぱいになったので、ついたくさん質問をしてしまった。

パー子さんがアイルランドに行ったきっかけは、もともと海外旅行が好きで、当時通っていた英語スクールの先生から強く勧められ、興味を持ち始めた。当時はアイルランドでのワーキングホリデーは始まったばかりで、パー子さんはチャンスと思い、第1期生として応募した。そこで少ない枠の中に見事選ばれ、3年間アイルランドへ行くことになった。

ルーンさんは父親の病気の治療費を集めるため、アイルランドに出稼ぎに出ていたそう。そんな二人がたまたま同じ時期にアイルランドに滞在し、同じレストランで働いていたことが出会いのきっかけだった。

### “マレーシアでの生活”

それから惹かれあった二人は交際をスタートさせ、2年後には結婚することに。

そして結婚を機に、ルーンさんの故郷であるマレーシアへと移住した。

他民族が暮らしているマレーシアでの生活は毎日が新鮮で刺激的であったが、当時のマレーシアは治安が悪く、犯罪も多かった。子どもが生まれたパー子さんにとって安心できるものではなく、特に子どもの誘拐が多発しているという知らせは、パー子さんを一層不安にさせた。

「スーパーで棚から商品を取ろうと、子どもから目を離した隙に連れ去られてしまう。」

そこで、ルーンさんと話し合い、昨年、家族で日本へ帰ることにした。

## “南部町での生活”

日本に帰ってからは、パー子さんの実家のある南部町に家族で住み始めた。静かで自然が美しく、昔から変わらない文化がある南部町の生活はパー子さんにとって居心地のいいものである。しかし、今度は逆にマレーシアで生まれ育ったルーンさんにとってストレスが溜まることもしばしば。

「マレーシアでは、深夜の2時3時、長い時は明け方まで友達や家族で飲茶（ヤムチャ）をしに行く習慣がある。」日本でいうと気軽にカフェに行くようなものらしい。マレーシア人との生活観の違いに驚いた。

「だから日本はみんな寝るのも早いしお店は閉まるのが早すぎる。」ルーンさんは冗談混じりに少し不満げな表情で、そう語っていた。

「いい意味で、マレーシアの人たちは後先のことを考えず、“今”を生きているのかもね。ルーンも毎日、純粋に“今”を生きているからすごい。」

パー子さんは、そんな風に日本人である自分とマレーシア人を見比べて、人として生きる本質を見ようとしているようだった。

## “今の生きがい”

そんな二人に、今の生きがいは何かと尋ねてみた。

ルーンさんは、「毎日、今を精一杯生きることしか考えていない。一緒に働いているおばちゃん達がとても優しい。」質問がちゃんと伝わらなかったような気もしたが、ルーンさんは本当に今を生きることを大切にし、体現しているようだった。

パー子さんは、「子どもの成長かな。それとヨガ！バリで学んで教室を開きたい。」

子どものような生き生きとした表情で生きがいを語ってくれた。

夢を尋ねてみた。

「子どもが人に迷惑をかけずに幸せに生きてくれればいいな。そして自分自身もこの成長を通して進化し続けたい。」ルーンさんにも同じ質問をすると、

「子ども達がノーマルにハッピーだったらいいよ！他に難しいことはあれこれ考えない。」と答えてくれた。

子どもたちの成長を生きがいに毎日を一生懸命生きながら、今を楽しんでいる二人の生き様は純粋でとても清々しく映った。



前山寛文（まえやまひろふみ）/福岡県出身  
合同会社ジブンゴト共同代表

### ～取材者の一言～

パー子さんに自身の座右の銘を尋ねると、「チャンスは後ろ禿げ（チャンスは後から掴もうとしても遅い）」という、ことわざを教えてくださいました。それを体現したからこそ、アイルランドでルーンさんと出会い、今の幸せを自分の手で掴みとったんだなと思います。二人の子どもたちも取材中に部屋に入って来て、終始とても賑やかで和やかな雰囲気でした。そんな姿を見ていたら家族っていいなと改めて思いました。現代の日本人にはなかなかない価値観でのびのびと育っていく子どもたちの今後も楽しみです。